

放送収入の増加で売上高は増収

売上高

1,153 億

7千9百万円

(前年同期比+3.5%)

営業利益

17 億

3千6百万円

(前年同期比-20.6%)

当期純損失

3 億

4千万円

1株当たり配当金

12.5 円

(年間配当25円)

総資産

859 億

4千7百万円

純資産(自己資本比率)

622 億

1千7百万円

(70.5%)

1株当たり配当金

グループの成長と企業価値の増大、長期的な経営基盤の充実に向けた内部留保とのバランスを考慮し、安定的な配当の継続を重視しつつ、業績に応じた利益還元に努めます。1株当たりの配当金は年額20円を下限とした安定配当に加えて、業績に連動した配当として、連結ベースで配当性向30%を目標にしています。

(2013年度 配当予想) 中間配当 1株当たり12.5円 / 期末配当 1株当たり12.5円

タイム収入、スポット収入がともに順調だったほか、BS放送が大幅に伸びたことにより、放送収入は増収となりました。また、ソフトライツ収入も好調だったことから、全体の売上高は増収となりましたが、東京スカイツリーへの送信所移転に伴う対策費用、テレビ東京ブロードバンドの「のれんの償却」などを特別損失として計上した結果、最終赤字となりました。

2013年度業績予想

売上高 …… 1,182億7千2百万円

(前年同期比+2.5%)

営業利益 …………… 33億6千万円

(前年同期比+93.5%)

- ・テレビ広告市場は下期を中心に前期を上回る需要見込み。
- ・タイム収入はロンドン五輪の反動減があるものの、スポット収入は堅調に推移。
- ・BS放送は増収基調を維持。

テレビ東京らしい番組づくりで視聴率が上昇 BSジャパンは媒体価値が向上し、売上100億円を達成

BS放送事業

放送収入 / 番組販売収入 /
その他周辺権利を利用した事業による収入

売上高 **100億6千9百万円**
(前年同期比+27.2%)

営業利益 **13億4千3百万円**
(前年同期比-3.9%)

■ 株式会社BSジャパン

放送周辺事業

放送事業に関連する事業による収入

売上高 **318億4千5百万円**
(前年同期比-3.3%)

営業利益 **19億7千5百万円**
(前年同期比-16.0%)

- 株式会社テレビ東京ミュージック
- 株式会社テレビ東京メディアネット
- 株式会社テレビ東京コマース
- 株式会社テレビ東京アート
- 株式会社テレビ東京システム
- 株式会社テレビ東京制作
- 株式会社テレビ東京ダイレクト
- 株式会社テレビ東京ヒューマン
- 株式会社テクノマックス
- 株式会社テレビ東京建物
- 株式会社エー・ティー・エクス(AT-X)
- TV TOKYO AMERICA, INC.

インターネット・モバイル事業

インターネット・モバイル向け
コンテンツ配信・提供による収入

売上高 **18億1千万円**
(前年同期比-11.0%)

営業損失 **1億8千4百万円**
(前年同期は営業利益1億1千8百万円)

■ テレビ東京ブロードバンド株式会社

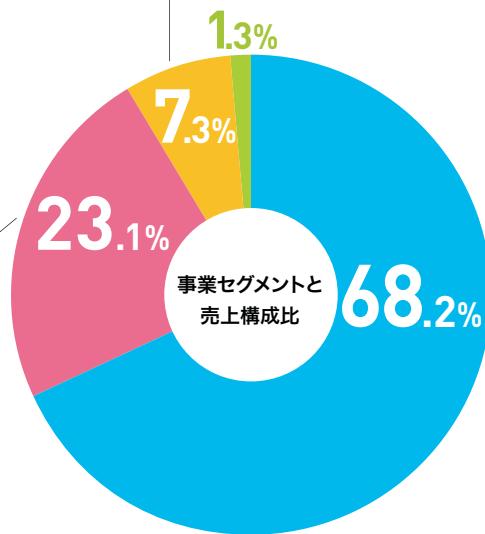
地上波放送事業

放送収入(タイム・スポット) / 番組販売収入 /
ソフトライツ収入 / イベント収入

売上高 **939億4千9百万円**
(前年同期比+3.0%)

営業損失 **2億7千1百万円**
(前年同期は営業損失12億2千万円)

■ 株式会社テレビ東京



Keyword用語解説

タイム収入

タイムCM(原則30秒)による収入。特定の番組を提供するCMのことで、広告主は番組の制作費・電波料を負担します。

スポット収入

スポットCM(原則15秒)による収入。番組と番組の間に放送するCMのことで。

番組販売収入

番組を他の放送局に販売することで得られる収入。系列局以外にも販売しており、系列ネットワークがカバーする地域外でもテレビ東京の番組は視聴されています。

ソフトライツ収入

放送番組のビデオ化や海外販売、出版化、ゲーム化など、放送番組の周辺権利を利用して収益を挙げる事業や、IT関連、アニメ、映画関連事業が含まれます。

イベント収入

スポーツ競技や文化イベントの主催などにより収益を挙げる事業です。

地上波放送事業

放送収入のうち、タイム収入は、ロンドン五輪の開催や大型営業企画の成立、年間を通してタイムセールスが順調に推移したことなどから、498億3千1百万円(前年同期比+1.8%)となりました。スポット収入は、視聴率の回復基調と企画セールスが寄与し、245億6千2百万円(同+7.0%)となりました。番組販売収入は、『開運!なんでも鑑定団』などの既存番組が売上を伸ばしたものの、アニメ番組の販売やローカル局への売上が伸び悩み、44億4千9百万円(同-6.0%)となりました。ソフトライツ収入のうち、一般番組では『ウレロ☆未確認少女』シリーズ、『勇者ヨシヒコと魔王の城』『モヤモヤさまぁ〜ず2』などのDVD販売が好調に推移し、IT関連では『虎ノ門市場』『ネット広告』収入などが堅調でした。アニメ事業は、国内が堅調で、海外も『NARUTO』を中心に好調に推移した結果、全体として120億1百万円(同+3.9%)

となりました。イベント収入は、フィギュアスケートの『ジャパンオープン2012』『カーニバル・オン・アイス2012』などが開催されましたが、前年度にあった大規模イベントが当年度は開催されなかったことが影響し、全体として13億3千5百万円(同-19.3%)となりました。



「ウレロ☆未確認少女」
DVDセット
©「ウレロ☆未確認少女」
製作委員会



「NARUTO」
© 岸本斉史
スコット/集英社・
テレビ東京・びえろ

放送周辺事業

通信販売関連は、テレビ通販番組枠が減少、夏物商戦で苦戦したものの冬物商戦で盛り返し、テレビ東京ダイレクトの売上高は65億8百万円(前年同期比-18.0%)となりました。CS放送関連は、加入者数の横ばいに加え、スカパー!SDからHD放送への移行に伴う加入者減も響き、放送売上は伸び悩みましたが、広告代理店業務の売上や『メタルファイト ベイブレード』シリーズなどのライツ売上が好調で、エー・ティー・エックスの売上高は51億4千8百万円(同+11.1%)と過去最高となりました。音楽出版関連は、印税収入が減少し、テレビ東京ミュージックの売上高は34億8千8百万円(同-5.1%)となりました。



「メタルファイト ベイブレード ZEROG」
© Takafumi Adachi, MFBBProject, TV Tokyo

BS放送事業

放送収入は、スポット収入が好調でした。番組販売収入は、『まさにはる君が行く!ポチたまベットの旅』などのローカル局への売上が堅調でした。費用面では、タイムテーブルの充実を図るため、2012年4月からレギュラー番組を開始し、番組制作費が増加しました。

インターネット・モバイル事業

インターネット・モバイル事業では、ソーシャルメディア向けアイテム課金販売や、子供向けバラエティ番組『ピラメキーン』公式ECサイト、「テレ東本舗.WEB」の商品販売が順調でしたが、フィーチャーフォン向け有料会員が減少し、新規事業のソーシャルゲームが計画を下回りました。